

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目5-20		
自己評価作成日	平成25年5月10日	評価結果市町村受理日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201297-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的な空間を活かし玄関ホールやリビングの壁には、行事や日常の一コマの写真、利用者が書かれた書道や絵などの作品を掲示し、居心地良くご本人のペースでゆったり生活して頂けるよう支援している。
外出をする機会を多く持ち、月に一度行事を計画しショッピングや外食等をしている。施設内行事では、身体を動かす事を目的に紅白に分かれ運動会を行い楽しませている。
個々の利用者が安心して生活を送れるように、利用者の体調不調や些細な訴えにも耳を傾け援助をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームで、地域内には同一法人の関連のグループホームや協力医療機関もある。共用空間が広く、居間は吹き抜けで開放感がある明るい造りで、壁には利用者の写真や、絵画、習字などの作品、小学生からのメッセージなどを数多く掲示し、自由な雰囲気を作っている。各居室も広めで、トイレと洗面所も設置され利便性が高い。地域交流の面では、近くの小学校の児童が学習発表会やよさこい踊りの演技を披露しにホームを訪れて交流している。運営面ではマニュアルや各種の書式などが整備されている。また、法人のグループホーム部門に統括管理者を配置し、内部研修や利用者アンケート、職員面談の実施など、支援体制を整えている。医療面では複数の科目の往診が利用でき、利用者や家族の安心につながっている。また、災害対策の面では、年4回避難訓練を実施するとともに、関連のグループホームとともに3か月毎に防火管理者会議を行うなど防災意識を高める取り組みを行っている。開設後10年経過し、高齢となった利用者も多いが、外出行事に全員が参加するなど、活発に活動することができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自のケア目標「1日1回意識をして一人とゆっくりした時間を持つ」とし、毎日のケアに努めている。 施設理念については、年に数回会議などで確認をする機会を設けている。	法人のグループホーム部門共通の理念の中で「社会的緩和(地域と共にあること)」を掲げ、地域密着型サービスの理念として確立している。その他に事業所独自のケア目標(年間目標)を作成し、共用部分に掲示して共有している。職員は理念を記したカードを携帯している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りには、地域住民の方々をご招待し交流をしている。近くの小学校の児童が年に数回来訪し、音楽や踊りを披露し交流を深めている。施設の中庭に近隣の子供達遊びに来る事も多く、利用者と一緒にしゃぼん玉をすることもある。	法人のグループホームが同地区に合計4ユニットあり、合同の夏祭りを開催しており、地域の方の参加を得て交流している。また、茨戸小学校の児童が学習発表会やよさこい踊りの演技を披露しにホームを訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に老人福祉施設が多いため、高齢者が一人で散歩している時は気を付けている。以前に一人で散歩していた、帰る家が解らなくなった近隣の高齢者もいた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、施設の現状報告、防火訓練の報告、議題に合わせた報告と話し合いをしている。	会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員や町内会役員、地域の有識者などの参加を得て、行事や感染症対策、研修、外部評価などのテーマで意見交換している。議事録や案内を家族に送付しているが、会議への家族の参加はあまり得られていない。	利用者家族の会議への参加が得られるよう継続的に家族に働きかけるとともに、参加が難しい場合でも事前に意見を伺い、その内容を会議で討議して家族に報告するなど、家族の意見を反映する取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市や区のグループホーム管理者連絡会に参加し情報を得ている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、管理者が市や区の管理者連絡会議に出席し、行政担当者や情報交換している。何か相談事があれば主に統括管理者が、行政に随時相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをもとに、行動を制限するような行為をしないよう周知している。北海道認知症グループホーム協会の「認知症」と「人」の権利をみんな考えるの小冊子を職員へ配布し、職員間での意識を高めている。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルが整備され、禁止行為が記載されたグループホーム協議会の小冊子も職員に配布して理解を促している。外部研修の報告会も行われている。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は出入りが自由である。出入りがあればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に小冊子を配布し、虐待防止に努めている。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に参加をし、諸制度についての相談などは管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、施設利用についての説明をし、ご本人とご家族の不安や疑問点を確認している。契約時にも再度確認をし、契約書・重要事項説明書の説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望については、面会時に利用者の近況報告をした際に機会を設け、会議やミーティングで話し合い対応している。ご家族にアンケートを実施し、結果をもとに要望に沿えるようにしている。	家族が頻繁に来訪しており、その際に意見を聞くほか、家族アンケートを実施して集計し、事業所に情報提供している。また、事業所や利用者の様子を載せたホーム便りを定期的に作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括管理者が職員との個人面談を行い、意見など聞く機会を設けている。管理者はミーティングや会議、連絡帳を活用し、日々の業務の改善や意見・提案を反映できるように取り組んでいる。	月1回のフロア会議とカンファレンスがあり、職員は活発に意見交換している。統括管理者と職員が年に数回、定期的に面談している。職員は、広報、環境などの係を受け持ったり、行事を交替で担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを把握し、統括管理者へ報告。統括管理者は、職員と個人面談を行い、勤務状況や希望などを確認し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成を目的とした有期型実習訓練を行っている。法人内研修以外の研修に参加ができるように、勤務調整をし、参加できる機会を多くしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区のグループホーム管理者連絡会に参加し、情報交換や職員研修など、サービス向上への取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時や見学時に、ご本人の不安なこと要望などをゆっくり時間をかけて聞き、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用をする前に、施設見学や自宅訪問を行い面談をしている。ご家族の不安や要望について確認し、施設利用が不安なくできるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や自宅訪問時に得た情報などから、必要とされる支援を判断し、よりよいサービスを利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々に応じた家事作業の分担(洗濯物たため、食器拭き)や、歌や絵画、書道などできる事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、居室でゆっくりとした時間を過ごして頂き、ご本人の様子を必ずお伝えしている。時には一緒にゲームに参加されるご家族もいる。電話連絡をしてご家族と連携し合い、ご本人を支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との外出や電話での連絡、手紙での交流が継続してできるようにしている。時にはご本人とポストまで手紙を投函することもある。	利用者の中には友人や知人の来訪がある方もいる。その他にも友人などの電話や手紙のやり取りを事業所で支援している。教会や知人宅、馴染みのスーパーなどに出かける利用者もあり、状況に応じて個々に外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まり全員が参加できるゲームや体操をし、大きな声で笑いながら、利用者も職員も楽しめるようにしている。利用者同志の関係を把握し、難聴の利用者が多い為聞き違いがないよう、すぐ職員が間に入り対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に、終了してもいつでも施設へ立ち寄って頂けるよう努めている。契約が終了となったご家族と病院受診で会うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やフェイスシートを見て、ご本人の生活歴に合わせた希望や意向を、日々の生活で汲みとるように努めている。	言葉で思いや意向を表すことが難しい方の場合も、過去のサービス提供時の経験をもとに表情やしぐさなどから思いや意向を把握している。利用者毎にフェイスシートや基本情報、課題分析シートを整備し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族から、今までの生活歴や暮らし方、生活環境などの情報を頂き、利用していたサービス機関などから情報を得て把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化や状態を記録し、毎日朝と夕のミーティングにて情報を共有している。他に月に一回、会議の中でご本人の現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、モニタリングや問題点を検討し、3か月ごとに見直しをしている。ご本人とご家族の意向も反映できるように作成している。受け持ちの担当職員とも協力し、意見やケアについて話し合い介護計画に反映している。	3か月毎に介護計画を見直し作成している。見直し時にモニタリングおよびカンファレンスを行い、集約した意見を次の計画に反映している。日々の生活記録はケアプランを参照しながら、目標項目に対応した記載を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調の変化や状態を記録し、ミーティングや会議にて担当職員と意見や情報を共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院との往診や受診、訪問看護との連携により、利用者の変化するニーズに合わせて、利用者が安心して生活ができる医療体制になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などの外出や外食、買い物、郵便局への外出、近隣の公園へ散歩など、一緒に行い楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医をご本人とご家族に確認し選択して頂いている。協力病院の内科と精神科、皮膚科、歯科の往診を受けられる体制になっている。その他の科については、ご家族のご協力を得て受診して頂く時もある。	協力医療機関による2週に1回の定期往診があり、内科以外に精神科、皮膚科、歯科の往診も受けることができる。かかりつけ医への通院も希望があれば支援可能である。個人毎の受診記録を作成し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回訪問看護を受け状態を報告している。状態に何か変化があった時にはすぐに連絡をし、主治医の指示のもと医療機関に受診するなど、連絡体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に訪問看護師や医療機関と連携をし、情報を共有している。体調が安定し退院の許可があれば、すぐに退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に係る指針の説明と同意をご家族より得ている。 入院時には、ご家族と話し合いを行い、ご家族の意向を主治医や訪問看護師とよく相談し、方向性を考え対応している。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人、家族に説明して同意を得ている。協力医療機関と密接な関係にあるため、実際に重度化した場合は入院となる場合が多く、事業所での看取りは経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時などのマニュアルをもとに、ミーティングや会議で確認をしている。救命救急の講習に参加し、急変時や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年で2回目となる、消防署、消防団、地域住民の方が参加をした夜間想定避難訓練を行った。自主訓練については3か月ごとに行い、災害にむけた訓練をしている。備蓄品の保管や防火管理者会議を定期的に行い、災害対策について取り組んでいる。	年4回の避難訓練を行い、そのうち3回は夜間想定訓練としている。また、1回は消防署や地域住民の協力を得て行っている。職員は定期的に救急救命訓練を受講しており、災害時に必要となる水や食料などの備蓄品も準備ができています。関連のグループホームとともに3か月毎、防災管理者会議を行い、意識を高めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話をする時には、視線を同じ高さに合わせ、ご本人や他の利用者が不快な思いをしないように、話す内容にも十分注意している。	法人内部研修で認知症ケアや接遇に係る研修を受講し、適切な対応を心がけている。利用者への呼びかけは名字に「さん」付けを基本としている。個人ファイルは事務所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や今何をしたいのかなどを確認しながら、できるだけ自己決定できるように、ご本人の意思に任せた言葉かけや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	徘徊をされている時にはご本人のペースで徘徊をしてもらったり、歌を唄いたい利用者には音楽をかけるなど個々のペースを大切に、無理強いをしない支援を心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の散髪、外出時の衣服選びやお化粧、髭剃り、入浴後のスキンケアなど、ご本人の好みに合わせておしゃれができるように配慮している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは委託業者に依頼しているが、アンケートを実施したり、利用者の嗜好に合わせたメニューを委託業者と連携し提供している。いなり寿司、おはぎ作り、ホットプレートを使用したいもち作り、焼きそば作りなど利用者と職員と一緒に作り準備や片付けをしている。夏には中庭で焼肉をしたり、スイカ割りをして楽しんで頂けるようにしている。	食材と献立を外部に委託し、事業所で調理をしている。食事は彩りや盛り付けも良く、昼食後のデザートも人気である。利用者の嗜好の反映では、誕生日に好きなメニューを聞いて提供したり、外出に出かけている。畑ではジャガイモ、なす、いんげんなど種類を豊富に作り、この冬は室内でミニトマトを収穫したりもして、食卓にのせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べられる量に合わせて盛り付けをし、苦手な食べ物も食べて頂けるように工夫している。水分は毎食事の他に、入浴後、午前午後のティータイム、レクリエーション後など水分補給をしているが、体調に応じて、水分補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い義歯洗浄とうがいをしている。ご本人ができることはして頂き、解らない事とできない事は介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンや行動に合わせて、ご本人ができる動作は見守りをし、排泄介助をしている。	生活(暮らし)アセスメントシートに個々の排泄状況を記録している。定時または様子を見てトイレ誘導を行い、おむつ外しに力を注いだ支援に努めている。自室にトイレがあり、プライバシーが保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給時や食事の野菜などを残している時は声かけを行い、歩く機会や運動への声かけをし予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴となっているが、皮膚の状態に合わせてシャワー浴対応を毎日行うこともある。個々に合わせた好みのお湯の温度、入浴剤、歌を唄うなど楽しく入浴ができるようにしている。	月、火、木、金曜日の午前、午後の時間帯で入浴を対応しているが、必要性が生じた場合は適宜支援している。入浴順や曜日の意向を聞いたり、湯船に浸かる長さなども体調を見て希望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活習慣に合わせて、ベッドやソファで昼寝をしたり、テレビを観て休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを常時確認できるようにファイルし、周知している。薬の変更があった時には、受診記録や連絡ノートへ記載し、ミーティングで報告し全職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみごとに合わせて、裁縫、将棋、畑作業、トランプ、絵画、歌を唄うこと、書道などできるように支援している。		

グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当を決め、季節に合わせた行事を月に一回、外食、買い物、お花見などを行っている。天気の良い日には、外でシャボン玉をしたり、畑作業や散歩をしたり、中庭でバーベキューをし、外出の機会を多くとれるようにしている。	散歩は自然豊かな川沿いや公園へ出かけており、車椅子利用の利用者も一緒に出かけている。買い物は近隣の病院内売店やスーパーを利用している。行事外出も多彩で回転寿司、カラオケ店、お花見などを企画して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かり金として金銭管理をしている。外出先などで買いたい物があつた時には、いつでも使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、ご本人とご家族や大切な方が手紙や電話連絡ができるようにしている。書いた手紙を郵便局のポストまで一緒に出かけ投函する時もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な空間を活かし、玄関ホールや廊下の壁には季節感を取り入れた装飾や写真で飾り、利用者の書道や絵画の作品を掲示し、明るく居心地の良い空間を心かけている。	事業所内は全体的に清潔感があり、広く明るい造りである。ウッドデッキが廊下や居間とつながり、開放感がある。共用空間には、行事等の写真や利用者の作品が豊富に掲示され、貼り方も工夫があり目を引くものとなっている。ゆったりとしたソファークォーナもあり、居心地のよさが感じられる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングのソファで読者や日光浴、将棋をして頂けるスペースを確保し、利用者同士が楽しめる空間となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人とご家族と相談をし、使い慣れたタンスやソファなどの家具、日用品を居室に持込み使用して頂いている。居室の壁には、ご家族や知人の方との写真や行事や誕生会の写真を貼り、居心地良く過ごせるようにしている。	居室は、洗面所、トイレ、ベッド、小タンス、テレビ台が備え付けられている。利用者や家族の意向の品々が置かれており、落ち着く雰囲気となっている。トイレはカーテン形式であるが、気になる臭い等もなく、きれいに清掃がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできることを重視し、声かけと見守り対応を心かけている。できないことなどについては、状況に応じて介助をしている。トイレの手すりに滑り止めのテープを巻き、安全にトイレを使用できるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟

作成日：平成 25年 6月 3日

市町村受理日：平成 25年 6月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を2ヶ月に一度開催しているが、昨年同様に家族の参加が少ない。全家族へ会議の案内と議事録を請求書に同封し参加して頂けるように取り組み、面会時に参加の有無や意見を頂けないか取り組んだが、家族の参加が少なく家族が参加しやすい議題や会議の持ち方を早急に見直す必要がある。	家族へ運営推進会議についてのアンケートを実施する。興味のある議題や参加しやすい日時など見直しをし、参加を呼びかける。	アンケートの結果から興味のある議題や日時などを検討し、家族の参加が増えるようにしていく。参加ができない家族については、面会時に会議の参加の有無、意見を頂けるように働きかけていく。	1ヵ月以内
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。